

報告事項 自動運転バス実証実験結果及び AI デマンド交通実証実験の 進捗報告について

1. 自動運転バス実証実験事業(結果報告)

既存の公共交通サービスにおける運転手不足や高齢化などの地域交通課題を解決し、高齢者を中心とした住民の移動手段を確保するため、公共交通におけるレベル4自動運転移動サービスを導入するに当たり、東濃地域自動運転推進協議会(多治見市、中津川市、瑞浪市、恵那市、土岐市及び下呂市)と共同実施団体(NTT 西日本)で東濃地域自動運転推進コンソーシアムを設置し、国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業補助金(自動運転社会実装推進事業)」を活用して実証運行(1年目)を行った。

【実証運行内容】

実証期間	令和7年9月28日(日)~10月11日(土) ※9月28日(日)は市制記念事業の一環として実施
運行内容	JR 土岐市駅⇄土岐市役所 1日9往復(9時~午後4時) 無償運行 専用アプリによる乗車予約(空席がある場合は予約なしでの乗車も可能)
運行車両	Navya Mobility 社「EVO3」 ハンドル、アクセル、ブレーキがない特別装置自動車 乗車定員:10人※ 最高速度:19km/h ※安全上の理由からオペレーターが同乗



【実証結果】

①乗車人数:期間合計 **597** 名(うち乗車体験イベント 250 名、公道実証は 347 名。)

<各運行日の乗車実績>

日	月	火	水	木	金	土
9/28 ※1	29	30	10/1	2 ※2	3	4
250 人	31 人	23 人	25 人	臨時運休	21 人	47 人
5 ※3	6	7	8	9	10	11
計画運休	39 人	28 人	13 人	40 人	32 人	48 人

公道実証における1日あたりの利用者数(31.5 人)

※1 9/28(日)は、市制記念事業、出発式開催

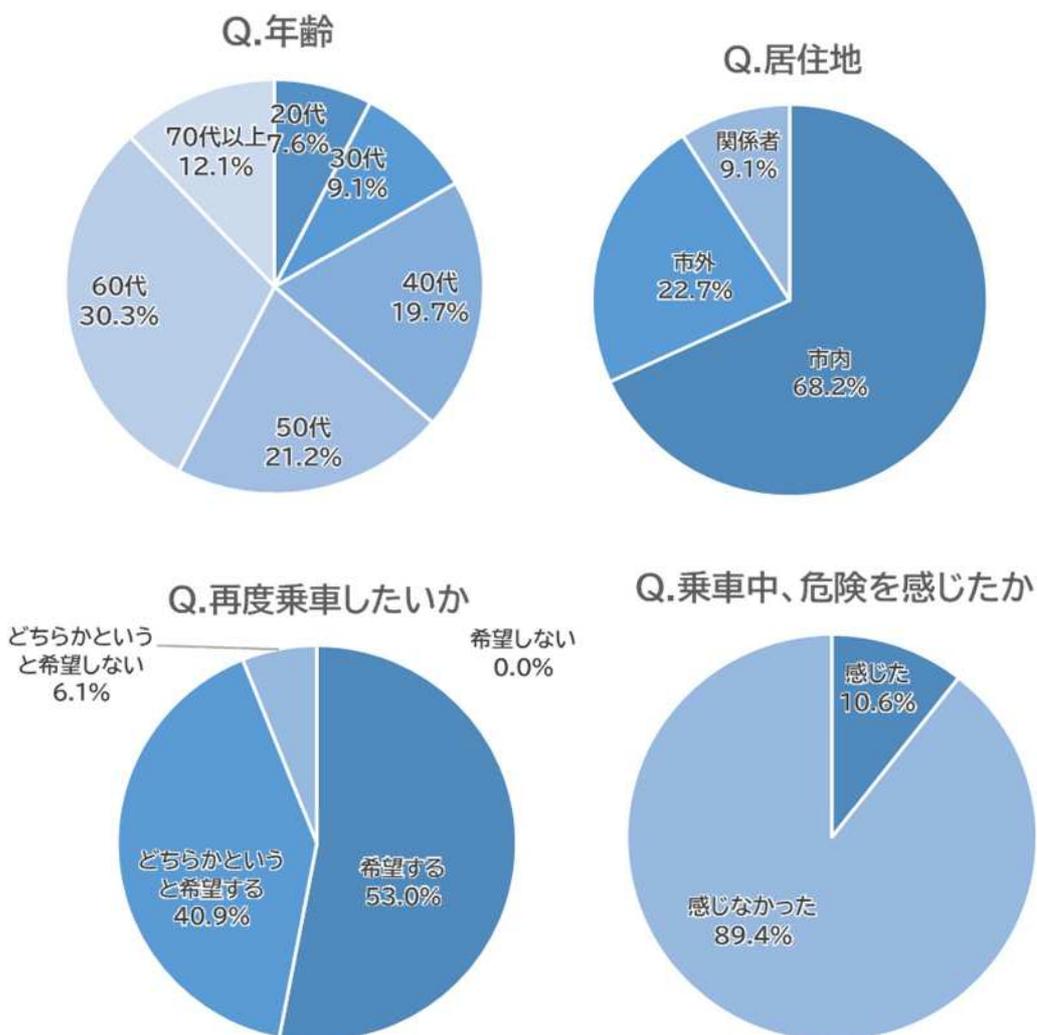
※2 10/2(木)は、運行前システムエラー表示による安全確認のため終日運休

※3 10/5(日)は、運行計画で設定した計画運休日

②利用者アンケート結果

実施方法:車内に掲示した二次元バーコードから Web フォームにより回答

有効回答数:66 件



※実証結果の検証については、現在 NTT 西日本岐阜支店において実施中

【来年度以降の実施に向けた課題】

- ・新病院ルート of 需要把握
- ・実証車両の最高運行速度(18km/h)、県道の渋滞対策(ルート、運行便数等の再検討)
- ・障害物の判定(道路脇の雑草を障害物として認識、停止する事例)
- ・路車協調システム(信号機との連携)導入実験による自動運転レベル向上

2. AI デマンド交通実証実験事業(途中経過)

新たな公共交通網を検討することを目的として、予約が必要であり、乗合が発生する公共交通について市民の受容性の調査を行うため、泉が丘デマンド交通の実証実験を開始したが、前日までに予約が必要であることや、ミーティングポイント(乗降できる場所)が限られていることなどから利用が伸びなかったことを踏まえ、新たに AI の活用、ミーティングポイントの見直し、予約のしやすさの改善など利便性の向上を行い、土岐市 AI デマンド交通実証実験を 3 か年計画で行うもの。

【実証運行内容】

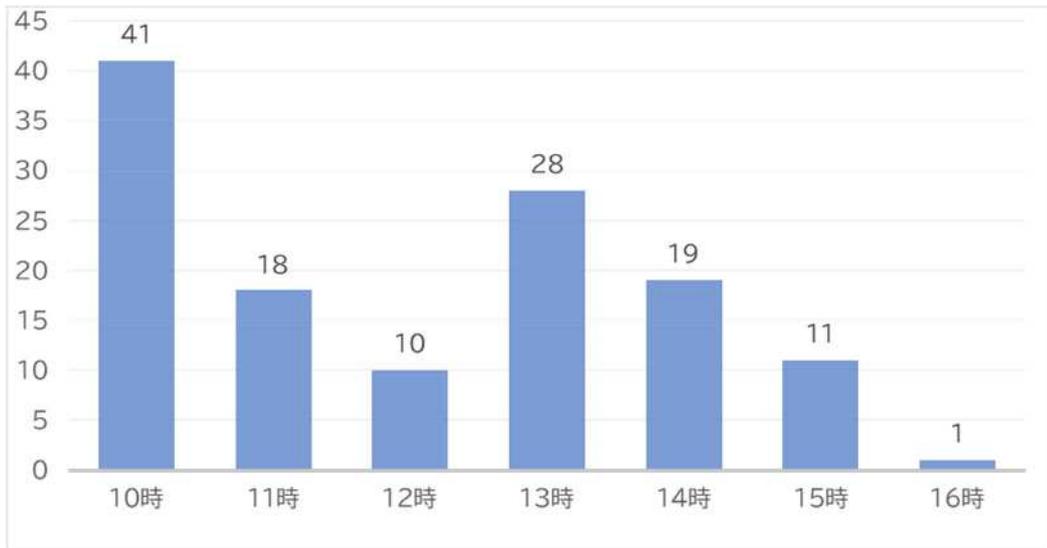
実証期間	令和 7 年 10 月 1 日(水)～令和 8 年 3 月 31 日(火) 平日(土日祝・年末年始除く) 午前 10 時～午後 4 時 ※令和 8 年度も新病院エリアを追加し継続実施予定
運行内容	泉北団地エリア(フリー乗降)⇔土岐市駅周辺エリアの乗降地点 1乗車:300円 運行台数:2台 (東鉄アシスト、平和コーポレーション、近鉄東美タクシーによる輪番) 電話または Web による利用予約に応じ、AI システムが最適な配車を指示 ※コールセンター、AI システムはコミタクモビリティサービスが運営

【実証開始1か月の状況】※10/1～10/31 の運行実績

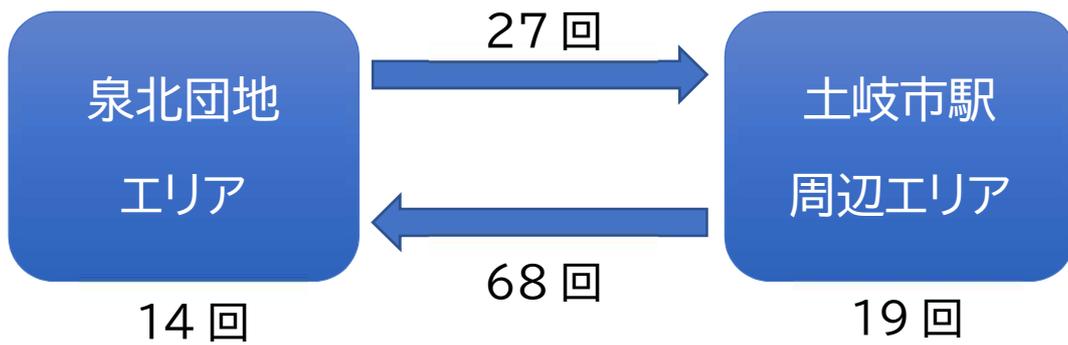
- 運行日数 22 日
- 運行回数(累計) 128 回(うち、電話予約:88 回、スマホ予約:40 回)
- 1 日当たり運行回数 5.8 回
- 利用登録者数 102 名
- うち利用経験あり 30 名
- リピート利用率 53.3%(2 回以上利用した人の割合)
- 乗降場所

乗車場所ランキング	降車場所ランキング
①土岐市駅前	①泉北団地内
②泉北団地内	②土岐市駅前
③三起屋ショッピングセンター	③土岐市駅北
④土岐市駅北	④三起屋ショッピングセンター
⑤泉西公民館	⑤泉西公民館
⑥V-drug土岐泉店	⑥泉が丘団地口

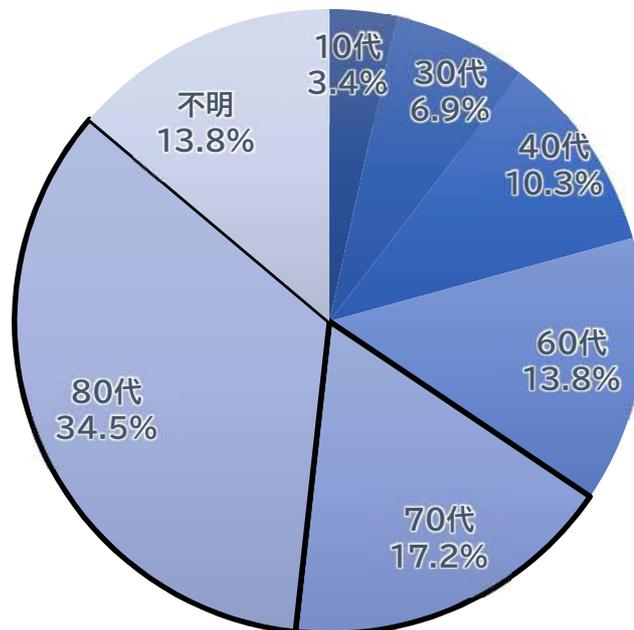
■ 時間別運行回数



■ 移動エリア別運行回数



■ 年齢別利用者数



<分析>

時間	午前 10 時台、午後 1 時台の利用頻度が高い →休便中の市民バス「泉が丘線」の利用者層とみられる
移動形態	・泉北団地内での乗車・降車ともに最も多い →自宅の前で乗降できるのが最大の利便性 ・各エリア内移動が一定数存在する <u>泉北団地エリア内</u> →エリア内の公共施設(泉西公民館)と自宅との往復ニーズあり <u>土岐市駅周辺エリア</u> →駅⇄三起屋間の移動、エリア周縁部の利用者もあり ・泉北団地を起点とする移動より、泉北団地を終点とする移動の方が多い →往路は運行時間前の市民バスで市街地へ移動し、復路では用事を済ませた各々のタイミングで AI デマンドを利用するケースが多い
利用回数	・リピート利用率の高さ(53.3%) →日常的利用への選択肢
予約方法	・スマホ予約率の高さ(31.3%) →若い年齢層の利用者中心。高齢層でも一定のスマホ利用あり ・雨の日の当日予約が多い →突発的な移動ニーズ(デマンド)に対応できる運行体制
利用者層	・70 代以上の利用者が約半数(51.7%) →特に 80 歳以上の利用が最も多い。民生委員による周知や登録支援の効果あり。 ・泉北団地エリア最北端の集合住宅の利用者も多い

※利用者アンケートの実施内容、期間については委託事業者と協議中

【今後の実証運行に向けて】

- ・登録利用者(100 名)に対する未利用者(72 名)の利用促進
- ・日常利用のモデルコース提案(利用者の声、体験記の共有)
- ・利用可能性の高い団体や住宅等への個別アプローチ
- ・新病院エリア拡大に向けた利用促進 PR
- ・リピート利用者に対するスマホ利用促進(目標:スマホ予約 50%以上)
- ・駅周辺エリアの乗降場所の再検討(利用実績に基づく整理やニーズ調査による新規追加)